

特集

# 病いと健康

## — ウェルビーイング再考

五体満足・健康体の人生に、病いの災厄が降りかかることを想像してみよう。オセロゲームで白い盤面が突如、黒一色に変化してしまうかのように、夢と希望で煌め<sup>きら</sup>いていた純白の人生に、病いの暗雲が垂れ込める。身体の状態はままならず、家事や仕事は制限され、精神的にも不調をきたす。世界保健機関によれば、健康とは「身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態（ウェルビーイング well-being）」であるから、治療のない病いを抱えた者にとって「健康」は“果たせぬ夢”と変わる。

悲観的すぎるかもしれないが、実際に起こり得る話だ。しかし、病いと健康の関係は本当にこの理解でよいのだろうか？ 高齢化社会を迎え、がんや糖尿病、認知症などの慢性疾患を抱えて生きる者は増えている。健康をただの理想論で終わらせないためにも、今、われわれは病いを抱えた者の健康とウェルビーイングを再考する必要がある。本特集を通じて、病いと健康の二分法を超え、病いと生きる時代のウェルビーイングを考えてみよう。 (東海林渉)